

名古屋市総合計画2023

— 世界に冠たる「NAGOYA」へ —

(案)

概要版

意見募集期間

令和元年

7/1^月～

7/31^水

市民の皆様のご意見を
募集します



提出方法

とじ込みの専用はがきまたは任意の用紙に、意見・住所・氏名をご記入のうえ、郵便・ファックス・電子メール・持参によりご提出ください。任意の用紙による場合は、「名古屋市総合計画2023(案)」に対する意見であることを明記してください。

※電話または来庁による口頭でのご意見は受付できません。

※お寄せいただいたご意見に対する個別の回答はいたしません。

※個人情報、名古屋市個人情報保護条例に基づき適切に取り扱うとともに、本業務以外での利用は一切行いません。



計画案(全文)の閲覧場所

市民情報センター(市役所西庁舎1階)、各区役所情報コーナー・支所などで閲覧できます。また、名古屋市公式ウェブサイト(<http://www.city.nagoya.jp/>)でもご覧いただけます。

点字版、音声変換用テキストファイルをご希望の方は、裏面の問い合わせ先までご連絡ください。



提出先

名古屋市総務局企画部企画課

郵便 便：〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

ファックス：052-972-4418

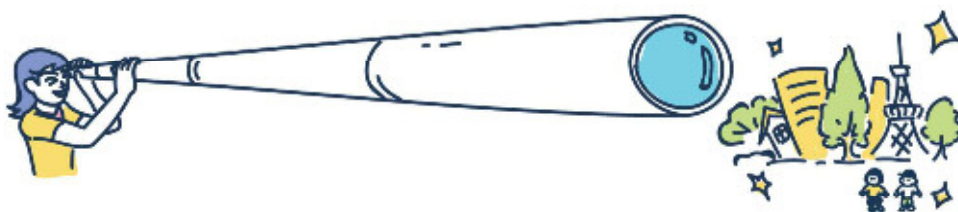
電子メール：sougoukeikaku-iken@somu.city.nagoya.lg.jp



名古屋市総合計画2023 について

総合計画は、市政を総合的かつ計画的に運営していくために、
長期的展望に立って本市がめざす都市像を描き、
それを実現するために何をすべきかをまとめたものです。

名古屋市総合計画2023では、
第20回アジア競技大会の開催、リニア中央新幹線（品川－名古屋間）の
開業後となる令和12（2030）年頃を見据えたまちの将来像を描きながら、
令和元（2019）年度から令和5（2023）年度までの5年間で取り組む
施策と事業を掲載します。



目 次

P2 名古屋を取り巻く状況

長期的展望に立ったまちづくり

P3～18

1 まちづくりの方針

2 めざす都市像

3 将来の都市構造

4 重点戦略

5 市政運営の取り組み

P19～20 第20回アジア競技大会の開催とリニア中央新幹線の開業

めざす都市像の実現に向けた施策・事業

P21～42

1 施策・事業数

2 計画事業費

3 計画の進行管理

4 取り組む施策

名古屋を取り巻く状況

1	少子化・高齢化に伴う人口構造の変化	・死亡数の増加と出生数の減少により、令和5(2023)年頃から人口減少に転じると推計しています。 ・今後は、社会の支え手である働く世代が減少し、高齢者の増加が見込まれます。
2	価値観・ライフスタイルの多様化	・家族や世帯のあり方、人と人とのつながりが変化しています。 ・近年、外国人住民※が大幅に増加しています。
3	自然災害に対する懸念	・南海トラフ巨大地震の発生確率は今後30年間で70～80%と、地震発生の可能性が高まっています。 ・近年、豪雨の発生回数が増加しています。
4	環境の持続可能性に対する懸念	・本市の平均気温は、長期的にみると上昇傾向にあります。 ・緑地など、身近な自然が減少傾向にあります。
5	リニア中央新幹線の開業に伴う変化	・リニア中央新幹線の開業により、人と人との交流が活発になることが見込まれます。 ・人口・経済活動が東京に吸い取られる「ストロー現象」の懸念があります。
6	交流人口の増加	・近年、本市を訪れる外国人旅行者が増加しています。 ・令和8(2026)年に「第20回アジア競技大会」が愛知県及び名古屋市で開催されます。
7	産業を取り巻く環境の変化	・IoT※、AI※など先端技術の発展により、産業を取り巻く環境が急速に変化しています。 ・少子化の進行により、労働力不足が懸念されます。
8	公共施設の老朽化	・学校・市営住宅や道路、河川、公園、上下水道など、さまざまな公共施設が古くなり、修繕、改修が必要になってきています。
9	持続可能な開発目標(SDGs)の採択	・「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものとされています。

エスディーゼーズ SDGs について

持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)とは、平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて掲載された世界共通の目標で、健康や教育、経済成長、気候変動に関するものなど、多岐にわたる17の目標と169のターゲットが設定されており、令和12(2030)年までの達成をめざすものです。



※ 外国人住民:名古屋市内に住所を有する外国籍の人。

※ IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

※ AI:Artificial Intelligence の略。人工知能。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。 2

長期的展望に立ったまちづくり

1

まちづくりの方針



名古屋の強みを最大限に引き出す

リニア中央新幹線が大阪まで延伸された全線開業時には7,000万人規模の世界最大の人口を有する巨大経済圏となるスーパー・メガリージョン※が誕生します。その中心都市となる将来を見据えて、「住みやすさ」、「強い経済力」、「個性豊かな歴史・文化」などといった名古屋が有する強みを最大限に引き出していく努力が必要です。

名古屋大都市圏※におけるハブ機能を果たし成長をけん引する

名古屋大都市圏において本市は、市民の日々の暮らしを支えるとともに、さまざまな分野において高度な都市機能を備えることにより、この圏域の人や企業の拠点として発展を支えるハブ機能の役割も担っています。その役割をしっかりと自覚し、常に広域的な視点に立ち、圏域の自治体とも十分に連携して名古屋大都市圏の成長をけん引していきます。

日本で1番子どもを応援！高齢者も安心できるみんなにやさしい福祉の実現

本市が将来にわたり持続的に発展していくためには、日々の暮らしの安心・安全が確保され、誰もが自らの能力と可能性を最大限発揮し活躍できるまち、日本で1番子どもを応援し、子どもを1人も死なせないまちとして多くの人をひきつける都市であることが必要です。本市は基礎自治体として、住民福祉の増進をはかるほか、人権が尊重され、多様な価値観・生き方を認め合えるよう多様性（ダイバーシティ）を推進するとともに、地域コミュニティの活性化に取り組み、みんなで支え合い、誰もがいきいきとした人生を送ることができる共生社会の実現に向けたまちづくりを進めます。

大規模災害から命と産業を守り、日々の暮らしの安心・安全を確保する

地震・豪雨による災害から命と産業を守るとともに、火災、交通事故、犯罪など日常に潜む危険から市民の暮らしの安心・安全を確保することは、本市の重要な責務であり、市民、企業、NPO※など多様な主体と行政の力を結集して、地域防災力の向上や都市防災機能強化などの防災減災対策、消防体制の充実強化や交通安全・防犯対策についてソフト・ハード両面から積極的に取り組んでいきます。

※ スーパー・メガリージョン：東京、名古屋、大阪はメガリージョンと呼ばれる大都市圏域を形成しているが、スーパー・メガリージョンは、その三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ、リニア中央新幹線全線開業により一体化し形成される世界最大の人口を有する巨大経済圏のこと。

※ 名古屋大都市圏：名古屋市を中心におおむね30～50kmの範囲で、産業、観光、防災など分野ごとに柔軟に捉えたエリア。

※ NPO：Nonprofit OrganizationまたはNot-for-Profit Organizationの略。非営利団体。

ヒト・モノ・カネ・情報を呼び込み、新たな価値を創造し持続的な経済成長をめざす

経済成長をけん引するのは、いつの時代もイノベーション※であり、この圏域の持続的な発展に向けて、絶え間ないイノベーションを創出することにより、産業の力を伸ばしていくことが重要です。世界の成長をけん引するイノベーション拠点の形成や先端技術の活用促進、成長産業の振興、産業を支える人材の育成・確保などに積極的に取り組むことにより、新たな価値を創造し続け、持続的で力強い経済成長をめざします。また、観光・MICE※の振興に戦略的に取り組むことにより、旅行者の消費をしっかりと取り込み圏域の活性化につなげます。

名古屋城天守閣の木造復元により、特別史跡名古屋城跡を世界に誇れる日本一の近世城郭へ

豊富な史資料に基づき、史実に忠実な名古屋城天守閣の木造復元に取り組むなど、本丸御殿とともに近世城郭の姿を現代に伝える特別史跡名古屋城跡の価値の確実な継承と魅力の最大限の向上により、世界に誇れる日本一の近世城郭をめざします。

魅力と郷土愛にあふれる世界のデスティネーションへ

歴史観光や産業観光の推進、名古屋独自の文化芸術の創造・発信に加え、なごやめしやアニメ、コスプレ、スポーツなどの新たな都市の魅力を磨き上げ、名古屋ブランドを確立することが必要です。また、魅力資源が集積しているエリアのさらなる魅力向上をはかるとともに、市民のシビックプライド（愛着や誇り）を深め、市民と行政による一体的な魅力発信に取り組むなど、魅力と郷土愛にあふれ、世界のデスティネーションとなるようなまちづくりを進めます。

アジア諸国との交流を活発に行い、アジア・世界の交流拠点都市へ

令和8(2026)年に愛知・名古屋で開催される「第20回アジア競技大会」は、名古屋の魅力をアジア諸国にPRし、アジアの人々との交流の拡大と活性化をはかる絶好の機会になります。アジア競技大会の開催に向けて、オール名古屋で受入環境の整備を進めるとともに、名古屋の魅力の創出・発信やスポーツを活かしたまちの活性化、共生社会の実現など、その開催の効果を最大限発揮できるよう、しっかりと準備を進めることにより、日本を代表するアジア、そして世界の交流拠点都市をめざします。

リニア時代のリーダー都市へ

リニア時代の到来に向けて、強い経済力を基盤に、産業交流の活性化や防災性と利便性の向上に向けた都市機能強化など、リニア中央新幹線の効果を最大限に引き出す投資をソフト・ハード双方とも積極的に行うことにより、国際的な都市間競争力を一層高め、スーパー・メガリージョンの中心として日本の成長をけん引する、リニア時代のリーダー都市をめざします。

SDGsの理念を実現し、持続可能な未来を切りひらく

持続可能な開発目標(SDGs)の達成に率先して取り組み、誰一人取り残さない持続可能な未来を切りひらいていくことが必要です。SDGsに掲げる17の目標と本市が取り組む施策との関係性を整理し、オール名古屋で目標の達成に取り組むことにより、SDGsの理念に基づく経済・社会・環境が調和したまちづくりを進めます。

世界に冠たる「NAGOYA」へ！

市民、企業、NPOなど多様な主体と連携して市民一人ひとりの命と暮らしを守るとともに、日本の経済、観光、交流の一大熱源となって大きな対流を起こし、世界から選ばれ尊敬される、「世界に冠たる「NAGOYA」」をめざします。

※ イノベーション：技術革新。新機軸。経済成長の原動力となる革新。

※ MICE(マイス)：企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

2

めざす都市像

令和12(2030)年頃を見据えて名古屋市がめざす将来のまちの姿を5つの都市像として示しました。

都市像1

人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できるまち

- 人権が尊重され、誰もが生きがいを持って生活できるまち
- 高齢者や障害者をはじめ誰もが不安なく、自立して生活できるまち
- 多様な人々が自分らしく活躍できるまち

高齢者も
障害者も
みんなが
元気！

都市像2

安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち

- 安心して子どもを生み育てることができるまち
- 子どもが健やかに成長できる、笑顔あふれるまち
- 若者が明るい未来を切りひらき、いきいきと活躍できるまち

子どもや
若者の
あふれる
笑顔！

都市像3

人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち

- 地震や豪雨などの災害に強いまち
- 火災や犯罪、交通事故が起こりにくいまち
- 安心・安全な市民生活が守られているまち

災害に強く
安心・安全！

3

将来の都市構造

駅を中心とした歩いて暮らせる圏域に、商業、業務、住宅、サービスなどの多様な都市機能が適切に配置・連携され、さらに、歴史・文化、環境や防災に配慮された、魅力的で安全な空間づくりがなされているとともに、都心を中心に、圏域の中核都市として交流を活性化させ創造的活動を生み出す空間づくりがなされている、大都市における集約連携型の都市構造の実現をめざします。

都市像4

快適な都市環境と自然が調和したまち

- 快適な都市環境の中で暮らせるまち
- 自然が身近に感じられる潤いのあるまち
- 環境にやさしい低炭素で循環型のまち

環境に
やさしく
快適・便利！

都市像5

魅力と活力にあふれ、世界から 人や企業をひきつける、開かれたまち

- 高いブランド力を有し、市民が誇りに思えるまち
- 世界から人や企業をひきつける、開かれたまち
- 地域の産業が活性化し、高い産業競争力を有するまち

世界に
冠たる
NAGOYA!

